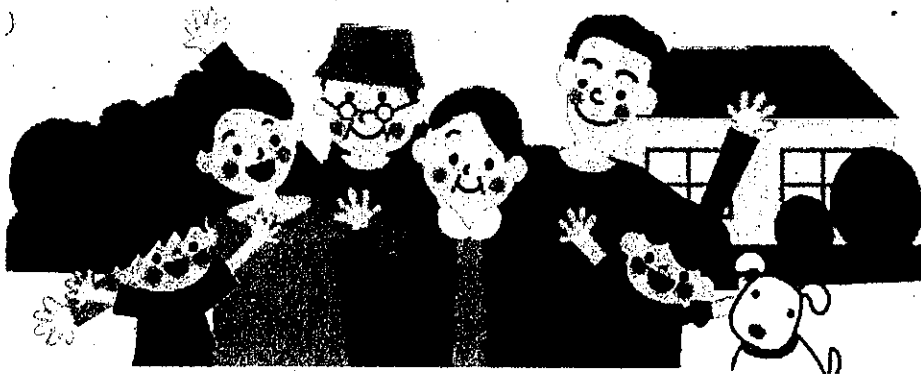




地域まちづくり未来事業計画

《 櫛引版 》



鶴岡市櫛引庁舎
令和4年2月現在

目 次

| | | |
|---|---------------------|----|
| 1 | 地域まちづくり未来事業計画について | P1 |
| | (1) 策定の趣旨 | |
| | (2) 計画期間 | |
| | (3) 計画の位置付け | |
| | (4) 財源について | |
| 2 | 櫛引地域の振興方針と施策の方向について | P3 |
| 3 | 櫛引地域の実施事業について | P4 |
| | 櫛引地域まちづくり未来事業一覧 | |
| | 個別事業資料 | |

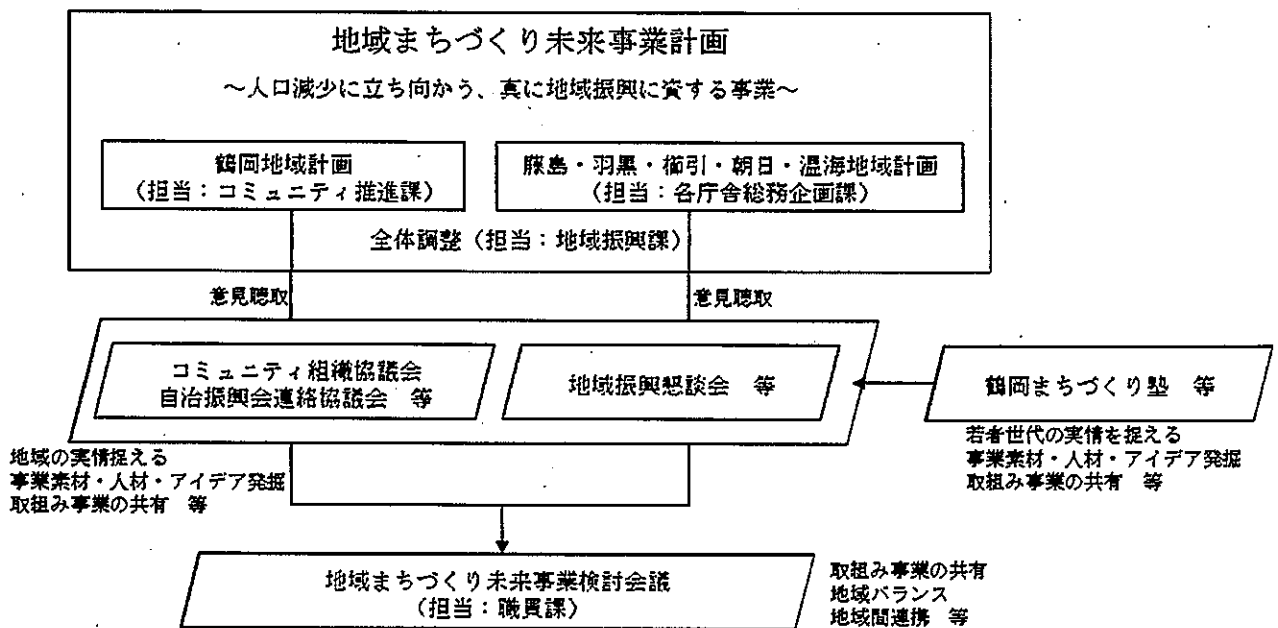
1 地域まちづくり未来事業計画について

(1) 策定の趣旨

「地域まちづくり未来基金」の設置目的である「地域社会・コミュニティの振興及び均衡ある発展」を図るため、「人口減少に立ち向かう、真に地域振興に資する」事業を地域まちづくり未来事業として実施することとし、これを地域まちづくり未来事業計画の中に位置づけ明らかにします。

地域まちづくり未来事業計画に基づいて地域ごとに事業を実施することにより、魅力あるまちづくりを推進するものです。

また、策定にあたっては、全ての地域が個性を発揮し、その魅力を高めるとともに、人材を育成していくまちづくり活動を活性化できるよう、各地域振興懇談会や鶴岡まちづくり塾、地域まちづくり未来事業検討会議など、様々な場面において地域の意見を伺い反映しています。



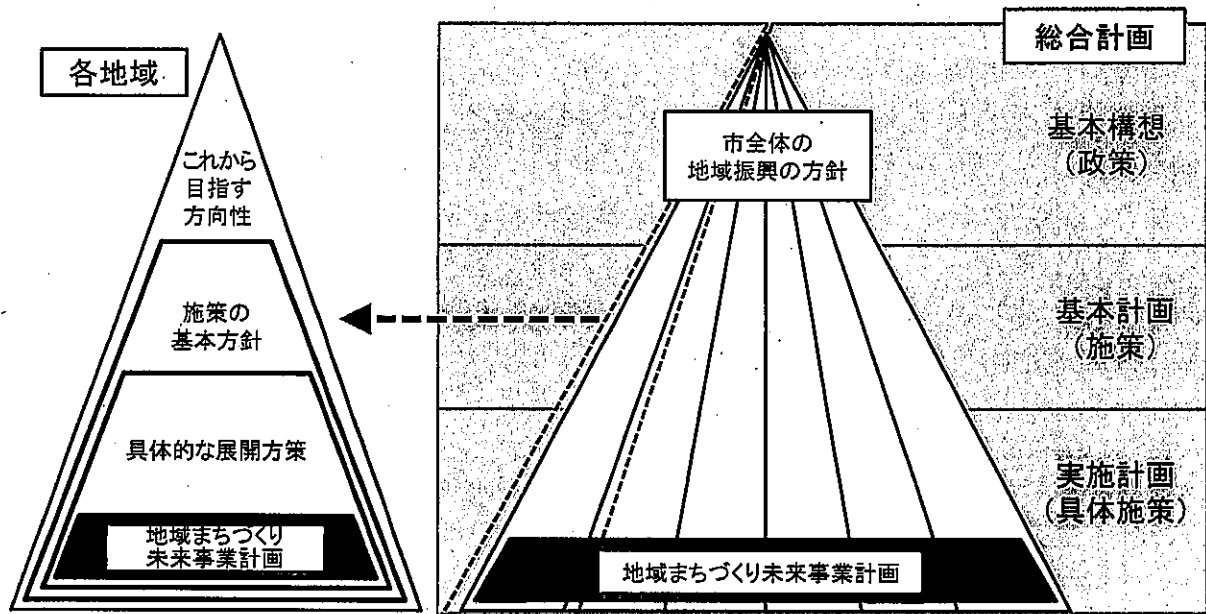
【地域まちづくり未来事業計画策定のイメージ】

(2) 計画期間

平成31年度から概ね3年程度とし、年度ごとに見直しを行います。

(3) 計画の位置付け

地域まちづくり未来事業は、第2次総合計画【計画期間：2019年度（平成31年度）から10年間】及び各地域の地域振興計画【計画期間：2019年度（平成31年度）から5年間】において、地域振興の方針を実現するためのより具体的な施策として位置づけられます。



【総合計画と各地域振興の方針・地域まちづくり未来事業計画の関係】

(4) 財源について

地域まちづくり未来事業は、主な財源として「地域まちづくり未来基金」を充てるほか、交付税措置の起債の充当のほか、活用できる国・県等の交付金なども活用します。

2 櫛引地域の振興方針と施策の方向について

地域振興の基本方針

櫛引地域は、本市を代表する果樹の生産地であり、黒川能をはじめとする伝統芸能や、丸岡城跡及び加藤清正墓碑などの歴史遺産が数多く残る地域です。さらには、中央を南北に貫流する赤川や庄内が一望できる中山間地などの豊富な地域資源を有しています。これらの特性を生かすことで、地域内外のたくさんの人々が集い交流する賑わいの創出と、ここに住む人が将来にわたって物心ともに豊かに暮らせる活力ある地域づくりをめざします。

櫛引の果樹生産の特徴である多品目生産と、観光果樹園や産直などの先進的な取組を生かし、「フルーツの里」としてのブランド化と果樹を中心とした産業振興の拠点づくりを進めます。また、農業体験や自然体験の環境整備を進めることで都市部との交流人口の拡大を図り、地域を越えて連携する広域の観光周遊の仕組みづくりに取り組みます。

黒川能を始めとする貴重な伝統芸能の保存と継承を支援し、あわせて観光資源としての活用を図ります。また、赤川周辺の施設や自然、芸術作品などを活用した憩いと賑わいの拠点づくりを進め、地域の活性化につなげます。

少子化や高齢化、人口減少などを見据え、住民の暮らしを守るための、地域コミュニティの維持活性化と、健康で安全で安心な生活が送れる仕組みづくりを進めます。

施策の方向

1. 果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくり

櫛引地域の強みである果樹生産を一層振興し、観光果樹園や加工、直売の6次産業化も促進しながら、地域農業の活性化を図ります。

- (1) 果樹生産基盤の整備推進
- (2) フルーツの里ブランド化の推進
- (3) 観光果樹園の拡大とネットワーク化
- (4) 担い手育成と樹園地流動化の推進

2. 農業自然体験に着目した都市農村交流の推進

農業体験や農家民宿、産直、観光果樹園などと、自然や歴史文化などの地域資源を活用したネットワークを形成し、交流人口の拡大を図ります。

- (1) 都市交流人口拡大の推進
- (2) 農業自然体験フィールドの充実
- (3) 体験型観光農業の充実

3. 地域を越えて連携する広域観光圏の形成

櫛引地域単独の取り組みを越えて黄金地区、朝日地域と本市南部地区の広域観光圏の形成を図ることで、出羽三山と連携した滞在型観光を組成していきます。

- (1) 南部(櫛引・朝日・黄金)広域観光拠点の整備
- (2) 地域主体の二次交通システム開発
- (3) 広域観光幹線道路の整備促進

4. 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進

黒川能や丸岡城跡など貴重な歴史文化資源と、これらの連綿とした地域の伝承活動を確実に保存継承しながら、さらに価値を高めていく取り組みを推進します。

- (1) 黒川能等民俗芸能の継承支援
- (2) 歴史文化の活用促進

5. コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進

地域の担い手の育成や広域コミュニティの設置検討、集落の連携などの新たな仕組みづくりを支援します。健康維持の拠点づくりや地域公共交通の構築など、健康で安全、安心に暮らせる環境整備を進めます。

- (1) 活力と持続性のあるコミュニティの推進
- (2) 協働のまちづくりと地域の賑わい創出
- (3) デマンド交通や外出支援策の推進
- (4) 健康で安全・安心なまちづくりの推進
- (5) 地域資源を活かした地域づくりの推進

3 実施事業について

(令和4年度版)

【再掲】 檜引地域まちづくり未来事業一覧

(単位：千円)

| No. | 事業名 | 事業内容 | R4予算額 (内示額) | 事業 期間 |
|----------------------------------|-------------------------|---|----------------|-----------|
| 1. 果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくり | | | | |
| 1 | くしびきフルーツ振興プロジェクト事業 | 多品種少量生産の特色を生かし、四季折々のフルーツを楽しむ「フルーツの里くしびき」として果樹振興を図る。 | 3,661 | R1~R5 |
| 2. 農業自然体験と観光目地的都市農村交流の推進 | | | | |
| 2 | 檜引地域都市農村交流促進事業 | 横浜青木小との交流、農家民宿の活動などを通じて交流人口の拡大や農産物の販路拡大などを促進する。 | 274 | R1~ |
| R2完了 | たらのきだいのネイチャーパーク事業 | 檜引たらのきだいのスキー場は、ファミリーや初心者向けに重点を置くこととし、そのためにレンタル物品、そり乗り場やカラフル照明等を整備した。ほのかたらのきだいは、現状を勘案し運営や活用方法等を検討していくこととして事業は完了した。 | 完了 | R1~R2 |
| 3. 地域を越えて連携する広域観光圏の形成 | | | | |
| 3 | 鶴岡市南部エリア観光周遊ルート魅力発信事業 | 本市南部エリア（檜引・朝日・黄金）の観光協会等との連携し、各種の観光資源等紹介や周遊ルートの設定することでマイクロツーリズムを推進し来訪者の増加を目指す。 | 1,000 | R1~R5 |
| 4. 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進 | | | | |
| 4 | 黒川能保存伝承支援事業 | 保存伝承研究会（公開調査等）開催支援や東小児童仕舞い指導による担い手育成、黒川能保存会運営補助金による支援を行う。 | 3,332 | R1~ |
| 5 | 能楽青年交流事業 | 首都圏大学等の能楽宿泊誘致による黒川能PRと若手能役者との交流、黒川能伝習館の有効活用などを図る。 | 400 | R1~ |
| 6 | 檜引綴れ織り文化保存事業 | 故郷藤虚籍の頭影と檜引綴れ織りの保存継承と認知度を高めるための情報発信等を支援する。 | 305 | R1~R5 |
| 7 | 檜引地域歴史文化施設ガイダンス整備事業【新規】 | 施設の案内表示や周辺環境の整備と、日本語表記の案内や解説の外国語表記により今後増加が見込まれるインバウンドの外国人観光客に対応し、観光振興の強化を図る。また、案内施設環境の整備、デジタル化により地元ガイドの負担を軽減し、担い手の育成、確保を図る。 | 1,288 | R4~R6 |
| R3完了 | 丸岡城跡環境整備事業 | 利用拡大のため大型バスでの来訪等にも対応できる駐車場の整備 ※令和3年5月21日完成 | 完了 | R2(~R3) |
| R3完了 | 黒川能アーカイブ事業 | 黒川能の映像・音声データのデジタル化保存と新たな音源を収録し、伝承活動への活用を図る。 | 完了 | R1~R3 |
| 5. 多様な人材の活躍と安全安心な地域づくりの推進 | | | | |
| 8 | 檜引地域デマンド交通導入事業 | 高齢化社会の住民ニーズに沿った既存の公共交通を補完する新たな地域公共交通システムを構築する。赤川右岸地域においてデマンド方式の公共交通の実証実験運行を継続するとともに、観光利用（マイクロツーリズム）との連携を図る。 | 4,909 | R1~ |
| 9 | くしびき若者未来創造事業 | 地域の若者を対象とした研修や討論を通じてまちづくりへの若者の参画を図るとともに、施策への反映や活動成果が上がるように取り組む。 | 183 | R1~R4 |
| 10 | 檜引地域希少淡水魚保存事業 | 絶滅危惧種イバラトミヨの種の保存と、公開展示や情報発信等による生態系保全や環境保護の機運醸成を図る。 | 128 | R1~ |
| 11 | 檜引地域花いっぱい運動で環境美化推進事業 | 住民協働による市推奨花サルビア植栽活動で、美しく住みよい生活環境づくりを支援する。 | 350 | R1~ |
| 12 | くしびき夏のイベント推進事業 | 檜引地域住民が集う「くしびき夏まつり」について、住民交流による賑わいを創出と地域活性化を図る事業として支援する。（主催：JA、商工会、観光協会） | 360 | R1~ |
| 13 | 「でわ宝」で地域おこしプロジェクト事業 | 「宝谷地区集落ビジョン」の達成のために行う事業（「でわ宝」を核とした地域活性化等）を支援する。 | 935 | R3~R4 |
| 14 | 横綱柏戸記念館活性化事業 | 横綱柏戸・鏡山親方の偉業を知る地元の皆さんや産業観光スポーツ関係者の方々と協働で本館の活性化策を検討し、自主的なイベント等で来館者を増加させ、地域振興や産業観光振興等を図る。 | 1,550 | R3~R6 |
| 15 | ゆ〜Town活性化事業【新規】 | 新たな魅力等を付加するイメージアップ事業により、地元の温泉施設としてより一層地域に浸透させ、地域住民の交流拡大による地域の活性化に向けた取り組みを行う。 | 430 | R4~ |
| 16 | 檜引地域いきいき健康活動拠点運営への支援事業 | 高齢者の健康維持、生きがいづくり、閉じこもり予防のために各地区が自主的に取り組む活動を支援するため、各種講座・研修を企画するにあたり参考になる講座メニューやその申込先をわかりやすく一覧にまとめたリストを作成・配布するとともに事業実施に係るサポートを行う。 | 1,000 | R2~ |
| 17 | 山添校閉校後の跡地活用（検討） | 山添校跡地の利活用について県に確認、調整していくとともに市としての活用方法を探る。 | 1,000 | R2~ |
| R6開始 | やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業 | 赤川かわまちづくり計画と連携した、檜引赤川エリアの橋梁、管理道路の更新や馬渡の桜並木、レンタサイクル、遊具等の整備 | 事業年度 R6~ | R6(R2)~R9 |
| R1完了 | 檜引地域交通安全・防犯の日啓発事業 | 交通安全啓発として30年以上続いてきた毎月1日の「交通安全の日」の小旗掲揚について、新たに防犯啓発の内容も加えて小旗を更新し、チラシ等での周知により運動を促進 | 完了 | R1 |
| R2完了 | 「空にかける階段」インフォメーション事業 | 檜引生涯学習センター内各所への作品展示、紹介パネル作成、QRコードからの市HP紹介映像へのリンクを実施し、事業を完了。富樫氏の作品の貸し出し事業、生涯学習センターへの展示については継続して実施する。 | 完了 | R1~R2 |
| 統合 | 檜引地域の情報発信事業（檜引PR事業） | フルーツ関連に特化した情報として、くしびきフルーツ振興プロジェクト事業の情報発信に統合した。 | 統合 | R1~ |
| R3完了 | 檜引地域公共交通調査事業 | 市が計画してきた公共交通再編案の検証と裏付けの調査等を専門家に委託し、檜引地域公共交通の再編を図る。 | 完了 | R3 |

R4予算額（内示額）合計 18,125 千円

| | | | |
|---------------------------------|-------|------|--------|
| 実施年度 | R1～R5 | 事業種別 | 継続 ソフト |
| 楠引地域振興計画での位置づけ (1) フルーツの里づくり | | | |

| | |
|-----|--------------------|
| 事業名 | くしびきフルーツ振興プロジェクト事業 |
|-----|--------------------|

背景・課題。国民生活

・楠引地域は多品種少量生産ながら、四季折々のフルーツ楽しめる「フルーツの里くしびき」として果樹振興を図っている。
 ・果樹農家の高齢化に伴う離農や規模縮小により遊休園地等の増加が顕在化しており、今後この傾向が続くことが想定される。
 ・産地としての生産基盤を維持していくためには、次の担い手を確保していくとともに、園地をスムーズに継承していく仕組みづくりが必要である。
 ・フルーツの里ブランド化の推進にあたっては、果実の安定生産及び付加価値の向上が求められる。

事業の方向性

●多品種少量生産の特色を生かした「フルーツの里くしびき」のブランド化

↑ 果樹振興のモデルケース

事業の3本柱

具体的取組

【園地継承対策・後継者の確保】 県・農政課+楠引庁舎

○県、JA指導員等による生産者技術向上研修会の実施 [40千円]

【目的】 生産技術の高位平準化
 【内容】 剪定作業等の高品質な果実生産に向けた技術向上研修

【生産者の所得向上】 楠引庁舎+奥田シエフ+産直あぐり

○フルーツ加工品の商品開発 [400千円]

【目的】 楠引産フルーツの高付加価値化
 【内容】 地元料理人（奥田シエフ）と連携したフルーツ加工品の商品開発（2品程度）

【産地 P R】 楠引庁舎+DEGAM鶴岡+庄内交通

○教育旅行等と加工体験の連携による誘客促進 [350千円]

【目的】 観光果樹園、産直施設の利用拡大
 【内容】 観光事業者と連携したモニターツアーの実施（もぎ取り体験+加工体験） DEGAM鶴岡

ブランド強化等に向けた取組

○フルーツの里推進員による事業推進 SNS等による情報発信 [2,741千円]

「くしびきフルーツ日記」の配信継続
 「くしびきフルーツだより」の発行継続
 ● 関係機関と連携した販売促進活動
 ● ふるさと納税推進等に向けた研修会の開催

○事務経費（委託費、印刷費等） [150千円]

事業目標

- (1) 園地継承対策・後継者（担い手）の確保
- (2) 生産者の所得向上（果樹生産基盤の整備促進、フルーツの里ブランド化の推進）
- (3) 産地 P R（観光果樹園の継続支援、プロモーションの実施等）

事業内容

「フルーツの里くしびき」のブランド化に向けて、「フルーツの里ブランド化支援事業（補助事業）」を実施し、鶴岡市における果樹振興のモデルケースとするべく取り組む。

- (1) 生産技術向上及びふるさと納税等推進に向けた研修会の実施
- (2) 新たな需要を創出するフルーツ加工品の商品開発
- (3) 教育旅行等と加工体験の連携による誘客に向けて、実証事業（モニターツアー）の実施
- (4) SNSによる情報発信、販売促進活動の継続

・「フルーツの里」ブランド化支援事業補助金 [R4予算額：3,531千円]
 [R4予算額：150千円]

・事務経費

【実施体制】

- ・実施主体は、楠引地域産業振興プロジェクト推進協議会
- ・協議会で「フルーツの里推進員」を雇用し、事業推進

| | |
|---------------|----------|
| 2022 (R4) 予算額 | 3,681 千円 |
|---------------|----------|

| | | | |
|---|-----------------------|---|---------------|
| 事業名 | <p>榊引地域都市農村交流促進事業</p> | <p>実施年度 R1～</p> <p>事業種別 (2) 都市農村交流の推進</p> | <p>継続 ソフト</p> |
| <p>情報・課題・住民ニーズ</p> | | | |
| <p>30年近くにわたる都市農村交流は、都市部に鶴岡フアンを多く輩出しており、今後も観光振興やグリーン・ツーリズムの推進、農産物の販路拡大など、多面的な活性化を一層図っていくために、よりステップアップした事業を実施していくことが必要である。</p> | | | |
| <p>事業目的</p> <p>JA庄内たがわ青年部榊引支部が昭和61年から取り組んできた横浜市立青木小学校との交流は、農業への理解促進をはじめ、榊引南小学校との相互交流や地域農産物の販売、学校給食での「つや姫」の使用などにつながってきました。また、修学旅行の受け入れは、民泊や農業体験、学校間交流など地域全体での取り組みに発展している。JA青年部の取り組みを引き続き支援するほか、農家民宿の強化と支援により、交流による活性化や都市部での本市理解者の獲得、地域農産物の販路拡大と交流人口の拡大など多面的な活性化に資する。</p> | | | |
| <p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域資源活用農家民宿支援事業補助金 [R4予算額：100千円] ・農家民宿グループ「黒川能の里の会」への視察研修費支援等 ○農産物等販路拡大支援事業補助金 [R4予算額：174千円] ・稲作出前授業の実施、あおきふれあいまつりへの参加 | | | |
| <p>内容・写真等</p> | | | |
| <p>2022(R4)予算額</p> | | | <p>274 千円</p> |

| | | | |
|----------------|-------|---------------|-----------------|
| 実施年度 | R1～R2 | 事業種別 | 完了 ハード・ソフト・事業補助 |
| 橿引地域振興計画での位置づけ | | (2) 都市農村交流の推進 | |

実績(評価)及び今後の方向性

| | |
|-------------|----------|
| 実績 | 13 千円 |
| ・推進協議会 | 23 千円 |
| ・先進地視察 | 44 千円 |
| ・ひまわり植栽実証実験 | 459 千円 |
| ・基本計画策定 | 495 千円 |
| ・そり乗り場整備 | 1,200 千円 |
| ・レンタル物品整備補助 | 1,859 千円 |
| ・カラフル照明整備 | 4,093 千円 |
| 合計 | |



評価

- ・スキー場利用者の増加が見込まれる。
- ・地域の活性化が図られる。
- ・既存施設の有効活用や施設経営の健全化が図られる。

今後の方向性

- ・橿引たらのきだきスキー場
市街地に近いことやナイター照明が完備している利点を生かし、地域に根ざしたファミリーや初心者向けのスキースキ場であることを運営の柱に据えて健全経営を継続する。
- ・ほのかたらのきだき
現状を鑑みると、通年誘客のために多額の予算を投じて整備することは現実的ではないと判断し、今後とも活用方法等を検討しながら運営することとする。

事業名

たらのきだきだきネイチャーパーク事業

「橿引たらのきだきスキー場」は、ファミリースキー場として多くのスキーヤーやスノーボーダーから絶大な支持を得ているが、全国的なスキーやスノーボード人気の下落と共に入込み客数は全盛期の46%程度となった。

「ほのかたらのきだき」は、地域資源活用型の農業構造改善施設として、また、橿引たらのきだきファミリースキー場利用者への便益施設として、スキー場の厨房や食堂機能を有するロッジに宿泊施設や浴室などを増築して開設した。当初は順調に経営していたが、利用者数は年々減少し、夏場施設利用者の現在はほぼ皆無となった。

しかし、地域住民や施設利用者からは、両施設存続の強い要望があり、また、民間事業者からは、両施設と連携して交流人口やインバウンドの増加を図りたいという提案がある。

事業目的

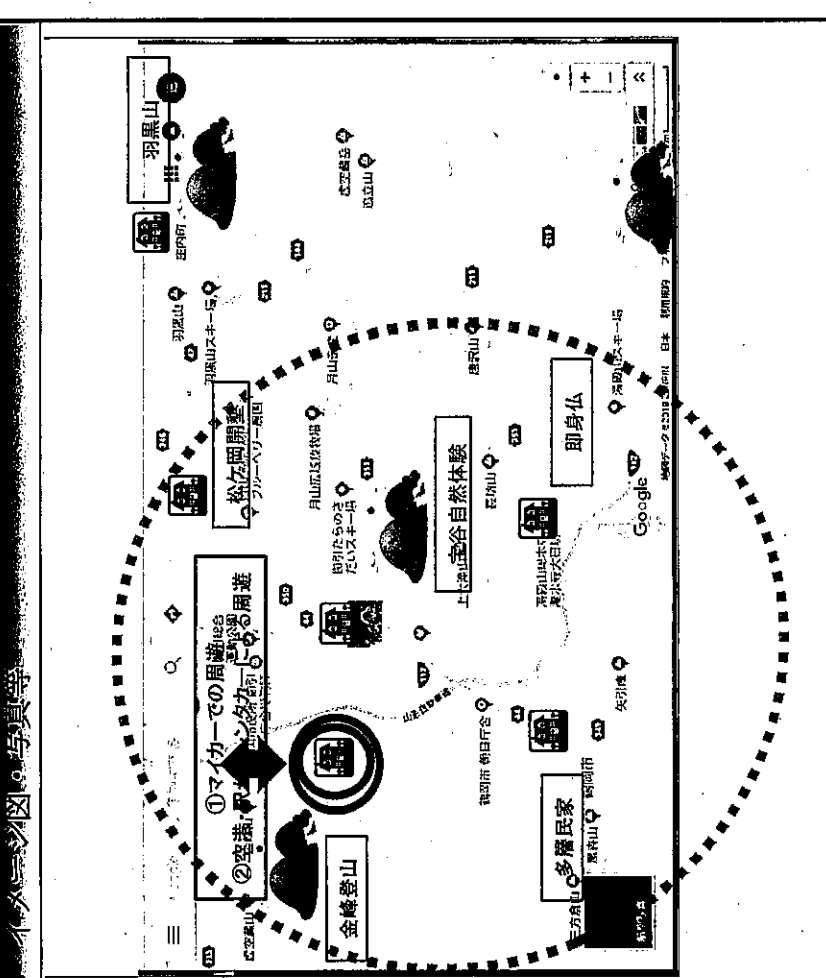
「橿引たらのきだきスキー場」と「ほのかたらのきだき」の機能を見直し、それぞれの施設の年間利用者を増加させること

事業内容

- 春夏秋冬
両施設が連携して自然体験教室等が実施できる週末や期間限定の施設として整備
 - ・花畑、遊歩道、みはらし台の整備
 - ・自然体験学校などの実施
- 冬季
ファミリーや初心者向けスキー場を目指して整備
 - ・初心者コースやそり乗り場の整備、リフトの整備、カラフル照明の整備、レンタル物品の整備
- 民間活力活用等の検討
自然体験施設等との連携や冬季インバウンドの受入れなど

上記の予定を進めてきたが、現状を鑑みると、通年誘客のために多額の予算を投じて整備することは現実的ではないと判断し、地域に根ざしたファミリーや初心者向けのスキースキ場としての整備を実施して、当事業は区切りをつけて完了することとした。なお、今後とも活用方法等を検討しながら運営することとする。

| | | | | | |
|----------|-----------------------|--------------------------------|-------|------|-------|
| 事業名 | 鶴岡市南部エリア観光周遊ルート魅力発信事業 | 実施年度 | R1～R5 | 事業種別 | 継続ソフト |
| 概要・課題・狙い | | 鶴引地域振興計画での位置づけ (3) 広域観光圏の形成 | | | |



本市の観光入込数は、加茂水跡館 (503,900人/R1、242,100/R2) と 羽黒山 (716,300人/R1、376,100/R2) を中心に回っており、プラサとして4温泉地への滞在 (872,000人/R1、457,200人 ※立ち寄り含む) であり、市内全域に目を向けた広域型観光の推進が求められる。

鶴引地域の場合、黒川能の里王祇会館、丸岡城跡史跡公園、観光果樹園等の特徴ある観光資源を有するが、鶴引・朝日・黄金地区などと連携した南部エリアとしての観光ルート確立と情報発信が不十分である。また、観光客に対する2次交通の確保が課題であるが、それに応える公共交通環境は整っていない。

地元居住者にも県内外からの来訪者にとっても、マイカーやレンタカーによる周遊が現実的であることから、車による市南部エリアの見どころ・景観スポットや周遊ルートの設定と情報発信を行うことにより、マイクロツリズムの促進と観光需要の喚起につなげたい。

事業内容

市南部エリアの周遊ルート確立のため、地域観光協会等の情報交換を推進する。

- 市南部広域観光の連携
- 市南部エリアの観光組織の連携のもと、見どころ・景観スポットの抽出や周遊ルートの設定を行い、情報発信を行いながらマイクロツリズムを推進する。
(鶴岡DEGAMと連携した県内外への情報発信含む)
- マイカー・レンタカーなど車による周遊の促進
- 空港・電車での来訪者も含め、鶴岡市内観光を行うには観光タクシーもあるが、やはりマイカー・レンタカーである。車によるマイペースな旅・周遊を支援する。

| | | |
|-------------|----|----|
| 2022(R4)予算額 | なし | 千円 |
|-------------|----|----|

| | | | |
|------------------------------------|-----|------|--------|
| 実施年度 | RI～ | 事業種別 | 継続 ソフト |
| 構引地域振興計画での位置づけ (4) 歴史文化の継承と活用促進 | | | |

背景・課題・国民意識

黒川能は、黒川地区の2つの能座により500有余年の間、連続と受け継がれてきたが、近年の人口減少や少子高齢化の影響で座加入の戸数および能役者、囃子方が年々減少傾向にある。
また、独特の語や舞、所作、囃子、着付けが特徴である黒川能を継承していくには長い年月を必要とするが、勤務形態や生活環境の変化、価値観の多様化、能役者の高齢化等により、人材の確保および十分な稽古の時間を確保するのも難しくなっており、保存伝承が危ぶまれている。
そのため、若い世代に伝統芸能に誇りを持ってもらう活動とともに、文化資源を後世に継承していく仕組みづくりと、旅行者など黒川能の理解者の掘り起こしが必要となる。
指定管理者である黒川能保存会は、主な収入を寄附金と公演収入としており、近年は寄附金も減少傾向にあり、また新型コロナウイルスのため公演依頼も激減しており、厳しい財政状況となっている。

【保存伝承の課題】
・人口減少 ・能役者の高齢化 ・生活環境、価値観の変化

【継承の仕組みづくり】
・人的交流 ・理解促進 ・後継者育成 ・事業の円滑な運営

- 研究会の実施
・黒川関係資料公開調査
・酒井家拝領品特別展示
- 後継者育成事業
- 黒川能保存会



事業名
黒川能保存伝承支援事業

事業内容

近年の少子高齢化、生活環境や価値観の多様化により、人材の確保が難しくなっており、保存伝承が危ぶまれているため、地元構引東小学校の児童に対し現役能役者による直接指導を行い、継承の意識付けをし、後継者を育成する。
体験用能楽器(30年度整備)と能装束(31年度整備)を活用し、王祇会館を「見る」施設から「体験できる」施設にするとともに、春日神社との連携や体験メニューの開発をすすめる、黒川能への理解促進と来訪者の増加を図る。
黒川能保存会の各種事業および管理運営体制を支援することで、継続的な保存伝承に寄与する。
また、令和4年度は酒井家入部400年記念事業と連携し、記念事業の盛り上げと誘客を図る。

- 公益財団法人黒川能保存会が行う下記事業に対し補助を行い支援する。
- 黒川能保存伝習研究会 (酒井家入部400年記念事業との連携)
黒川能に造詣の深い識見者の講演会や伝統芸能の上演、装束や面等黒川能に関する資料の公開調査や調査官による講評を聞く会。
酒井家拝領品の特別展示等。
 - 後継者育成事業
現役能役者による演能および囃子方の指導と水筒の能等成果発表機会の創出。
 - 黒川能保存会の運営事務全般の補助

| | | | |
|------------------------------------|-----|------|--------|
| 実施年度 | RI～ | 事業種別 | 継続 ソフト |
| 楠引地域振興計画での位置づけ (4) 歴史文化の継承と活用促進 | | | |

能楽青年交流事業

現在、首都圏の大学の能楽サークルを対象に、能楽青年交流事業により、能楽合宿、地元若手能役者との交流を行っているが、その時限りの関わりとなつてい
る。せつかく黒川に来てもらっても、短期間のため、黒川能と農業、地元住民の関
わり、食文化等について、理解や体験があまり出来ずに終了してしまっている。
能楽合宿に参加したことをきっかけにピーターとなつてもらいたい、黒川能への
理解促進、農業や食文化等の体験をおし、長期的な交流へと発展させていきま
い。また、黒川能伝習館には能舞台が設置しており、地元の能役者の稽古に使用さ
れているものの使用頻度は少なく、利活用について検討する必要がある。

大学能楽サークル等の稽古合宿誘致・受け入れ

- ・王祇会館
- ・黒川能伝習館
- ・農家民宿
- ・市内観光施設

【既存施設の利用促進】
【観光振興】

【学び・理解促進・交流】

- ・地元能役者との交流会
- ・イベント参加
- ・食文化
- ・農業体験
- ・住民生活



- 【能楽合宿 (例)】
- ・伝習館能舞台での能楽稽古
 - ・農家民宿への宿泊
 - ・地元若手能役者との交流会
 - ・市内観光
 - ・装束、面等鑑賞

「能楽合宿地」としての確立

交流人口の増加および長期的な交流

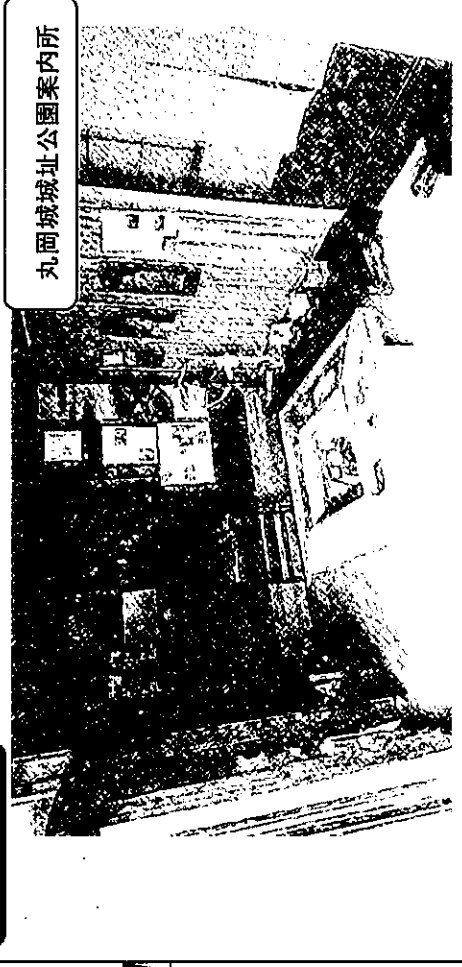
現在取り組んでいる能楽青年交流事業は、首都圏の大学生を対象に、夏季休暇
を利用した能楽合宿を行っているが、その時限りの交流になっているため、この
事業を通年に拡大し、1年を通じた能と農、住民生活の関わりを学んでもらい、
能の理解促進、交流の継続につなげる。
また、黒川能伝習館、王祇会館、農家民宿の利用促進、観光振興を図り、「能
楽合宿地」という分野を確立する。
近年の新型コロナウイルス感染症により、首都圏の大学サークルは能楽合宿に
来訪できないことから、地元のサークル等にも黒川能伝習館の能舞台を広く貸し
出す等、既存施設の利活用、交流人口の増大を図る。

事業内容

- ・大学や青年層の能楽サークルを対象とした能楽合宿の誘致
- ・能楽合宿での黒川能伝習館の能舞台の貸館や農家民宿の斡旋
- ・地元の若手能役者や地元住民との交流
- ・能楽合宿に参加した学生の「水焰の能」への出演依頼
- ・地元農家での農業体験
- ・王祇祭や蠟燭能の観能またはボランテニア
- ・地元サークル等への黒川能伝習館の貸館

| | | | |
|------------------|-------|------|-------------|
| 実施年度 | R1～R5 | 事業種別 | 継続 ソフト・事業補助 |
| 櫛引地域振興計画での位置づけ | | | |
| (4) 歴史文化の継承と活用促進 | | | |

イメージ図・写真等



丸岡城址公園案内所



綴れ織りの織機

虚籟庵 錦織曼茶羅糸塚

| | |
|-----|--------------|
| 事業名 | 櫛引綴れ織り文化保存事業 |
|-----|--------------|

背景・課題・住民ニーズ

背景
 ・平成8年に京都「石川つづれ」が旧櫛引町に設置した「土筆工房」を契機として、京都西陣織りの流れを汲み、櫛引地域の家庭内産業として栄え、現在も鶴岡地域、櫛引地域に残存。
 ・綴れ織り工房の虚籟庵は、歴史ある「つるおおか絹物語」として世界へ発信。
 課題
 ・綴れ織り職人が少なく、後継者不在、職人の高齢化。
 ・天澤寺にある遠藤虚籟の糸塚、綴れ織り工房の虚籟庵の認知度が低い。
 ・作品製作に時間と手間がかかる。
 ・需要、販路が限られている。
 ・伝統工法を承継していく体制が確立されていない。

事業目標

故遠藤虚籟の顕彰と櫛引地域で受け継がれている綴れ織りの情報発信等を通じて交流人口の増加と伝統工法を継承を図る。櫛引地域振興計画 5-(4) 2-①

事業内容

史跡顕彰組織等が行う故遠藤虚籟の顕彰と綴れ織りの展示・体験、情報発信活動に対する事業を支援する。
 1. 虚籟庵の模様替え (R3実施)
 ・丸岡城跡史跡公園の休憩・案内所部分の模様替え
 ・故遠藤虚籟や作品のパネル設置等
 2. 綴れ織りの作品展示、綴れ織り体験実施 (R4)
 ・致道博物館 (遠藤虚籟の作品を収蔵) と疎開先であった丙申堂に糸塚に関するパンフレットを設置して、丸岡城跡への誘客を図る。
 ・丸岡城址公園、松ヶ岡開墾場の行事開催にあわせて虚籟庵による綴れ織りの実演イベントを実施し、後継者となり者を掘り起こしを図る。

| | | | | |
|------|------------------|-----|------|--------|
| 事業名 | 事業年度 | R4～ | 事業種別 | 新規 ソフト |
| 事業内容 | (4) 歴史文化の継承と活用推進 | | | |

■ 新たな観光拠点を中心とした整備

櫛引地域には現在、黒川能の里王祇会館、丸岡城跡史跡公園という文化施設があり、伝統芸能や歴史について展示等行い、全国各地から見学に訪れている。近年は、インバウンドによる外国人観光客も増えつつある。

この、会員の高齢化や担い手不足等により、対応が困難な場合もある。

また、施設内の表示は全て日本語表記であり、英語で対応できない状況である。外国人観光客が訪れる場合、通訳などが同行しないと案内できない状況である。

そのため、酒井家庄内入部400年の機会を生かし、文化施設を新たな観光拠点に位置付け、地域内にある他の観光施設の多言語化等を一体的に整備することで、観光振興の強化を図る。

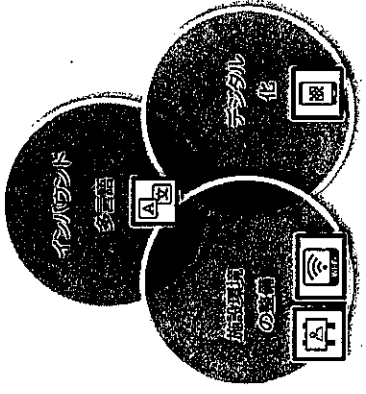
○ 観光振興の強化

- ・施設の案内表示の整備 (サービス性)
- ・施設及び通信環境の整備
- ・インバウンドへの対応 (多言語パンフレット)
- ・周辺環境の整備 (アクセシビリティ)

※産業建設課 (建設、観光部門) と連携した事業展開

○ 担い手育成・確保

- ・QRガイドによる館内の案内
- ・既存の映像資料の英語字幕処理

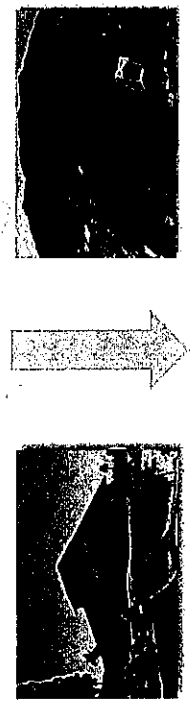


■ 事業予定 (R4)

- 多言語ガイド整備事業
 - ・王祇会館、丸岡城跡史跡公園のパンフレット製本 (英語翻訳) : 298千円
- 王祇会館・丸岡城跡案内看板製作業務委託
 - ・王祇会館、丸岡城跡史跡公園に案内看板を設置 (サービス性向上) : 990千円



酒井家庄内入部400年の機会を生かし、施設への来館を促すとともにイベント後も継続的に観光振興の強化を推進することが重要!



歴史的・文化的価値の理解促進による新たな観光拠点

地域内にある他の観光施設と連携 ⇒ 広域観光

■ 施設環境の整備

施設内の案内表示の整備により、観光客へのサービス性を向上させ、観光振興の強化を図る。

日本語表記の案内や解説の外国語表記により、今後増加が見込まれるインバウンドの外国人観光客に対応する。

案内施設環境の整備、デジタル化により地元ガイドの負担を軽減し、担い手の育成、確保を図る。

各種媒体には、令和2年度に実施した観光庁の「多言語解説整備支援事業」の成果品である英語解説説を利用することで、支援事業の条件である媒体化を進める。

産直あぐりや柏戸記念館などの地域内にある観光施設と連携し、観光振興の強化を図る。

【令和4年度】

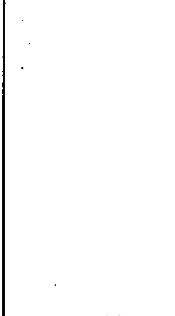
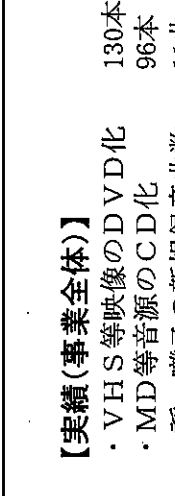
- ・英語版パンフレット作成 (王祇会館1,000部、丸岡5,000部)
- ・案内看板製作 (春日神社、丸岡)
- ※酒井家庄内入部400年実行員会等と調整、情報共有を図りながら実施

【令和5年度以降 (予定)】

- ・QRコードによる英語解説、音声ガイド整備 (王祇会館、丸岡、あぐり、柏戸)
- ・Wi-Fi整備 (王祇会館、丸岡、柏戸)
- ・王祇会館映像資料の英語字幕化

○ 各媒体で使用する英語翻訳については、令和2年度に実施した観光庁「多言語解説整備支援事業」の成果品 (英語解説) を使用する。

| 事業名 | 丸岡城跡環境整備事業 | 実施年度 | R2 (～R3) | 事業種別 | 完了 ハード |
|--|--|--|-------------------------|-------------|--|
| <p>○丸岡城跡史跡公園は、史跡復元の面的整備を平成21年度末に完了し、続けて、平成28年度にはガイドランス施設として武家住宅旧日向家を復元整備して、以降、2,000人を超える観光客を迎えている。</p> <p>○バス等での来訪やイベント開催時には、市道が狭く進入できなかつたり、駐車台数が少なく利活用に支障をきたしていることから新たな駐車場整備を地元自治会や顕彰団体から強く求められている。</p> <p>○マイクログラス以上の大型車がガイドランス施設に進入できよう市道の拡幅を要望されているが、事業費が高額になるため、駐車場整備で支障事項の解決を図るもの。</p> | <p>丸岡城跡史跡公園を会場としたイベント開催時には、市道が狭くマイクログラスが進入できなかつたり、現駐車場が狭いため来訪に支障をきたしている。</p> <p>新たに駐車場を整備し、大型バス等での来訪やイベント開催時の駐車容易にして、地域資源の更なる利活用を図りながら、観光振興、交流人口の拡大、地域の活性化に資するとともに、地元の顕彰活動を通じ地域コミュニティの充実を図る。</p> | <p>櫛引 地域振興計画での位置づけ</p> <p>景観(詳細)及び今後の方向性</p> | <p>(4) 歴史文化の継承と活用促進</p> | <p>完成写真</p> | <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場を整備したことにより、大型バス等による来館の利便性が向上した。 ・ ※令和4年度は酒井家庄内入部400年であり、関連する観光事業により来館者の増加が見込まれる。 <p>今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 案内看板やパンフレット整備など来館者へのサービス性向上を推進し、地域資源の更なる利活用を図る。 |
| 事業内容 | <p>大型バス等での来訪やイベント開催時の駐車に支障をきたしていることから、史跡公園近辺に駐車場を整備するもの。</p> <p>○用地買収 [950㎡] R2年度完了</p> <p>○分筆登記業務委託 R2年度完了</p> <p>○測量設計業務委託 R2年度完了</p> <p>○駐車場整備工事 [乗用車14台、大型バス2台]</p> | 2022(R4) 予算額 | 完了 | 完了 | 千円 |

| | | | | | |
|---|--|---|--|--|--------|
| 事業名 | 黒川能アークライブ事業 | 実施年度 | R1～R3 | 事業種別 | 完了 ソフト |
| <p>黒川能は、黒川地区の2つの能座により500有余年もの間、連綿と受け継がれてきたが、近年の人口減少や少子高齢化の影響で、座加入の戸数および能役者が年々減少傾向にある。</p> <p>また、黒川能の囃子方は譜面だけでなく口承による指導、稽古で、特有の伝承方法であることから、途絶えかけた演目もあると認め、正確に継承していくのが難しい。</p> <p>独特の謡や舞、所作、囃子が特徴である黒川能を継承していくには長い年月を必要とするが、勤務形態や生活環境の変化により、人材の確保および充分な稽古の時間を確保するのも難しくなっており、保存伝承が危ぶまれている。</p> <p>これまで上演された演目や演奏が収録されているものがあるが、VHSやMD等媒体が古いため再生機器もなく、活用されていない状況である。</p> | <p>【実績(事業全体)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VHS等映像のDVD化 130本 ・ MD等音源のCD化 96本 ・ 謡、囃子の新規録音曲数 11曲 ・ 既存DVD複写作成 113枚 ・ 貸出用ディスク作成 ・ 貸出体制の整備 (貸出要綱制定、貸出ディスク用ラック整備) |  |  | <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル化した映像や音源のデータは外付けハードディスクに保存しており、平成25、26年度に整備した能面装束の写真図譜データとともに将来的な保存伝承のため管理していく。 ・ 収録したディスクは、令和4年度から能役者や学校関係に貸出を行い、実際の稽古や伝統芸能の学習等に活用していく。 ・ また、年次的に一般住民にも鑑賞用として広く貸し出しできるように、貸出体制について引き続き検討していく。 | |
| <p>【R1年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VHS映像のDVD化 102本 ・ MDのCD化 47本 <p>【R2年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VHS等映像のDVD化 28本 ・ カセットテープ等音源のCD化 37本 <p>【R3年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 謡、囃子の新規録音 11曲 ・ カセットテープ等音源のCD化 12本 ・ 既存DVD複写作成 113枚 ・ 貸出用ディスク複製作成 ・ 貸出体制の整備 (要綱様式、リスト、ディスク用ラック) | <p>各年、検討委員会開催 (年2回)</p> | 2022(R4)予算額 | 完了 | 千円 | |

| | | | |
|--------------------------------|-----|------|--------|
| 実施年度 | R1～ | 事業種別 | 継続 ソフト |
| 柳引地域振興計画での位置づけ (5) 地域づくりの推進 | | | |

柳引地域振興計画

柳引地域デマンド交通導入事業

○高齢化や運転免許返納の増加により、日常生活に必要となる移動手段を持たない人が増加してきているため、移動手段を確保する必要がある。

○高齢化率の比較

| 鶴岡市 | 柳引地域 | 柳引東地区 | 柳引西地区 |
|--------|--------|--------|--------|
| 31.90% | 32.90% | 36.40% | 31.00% |

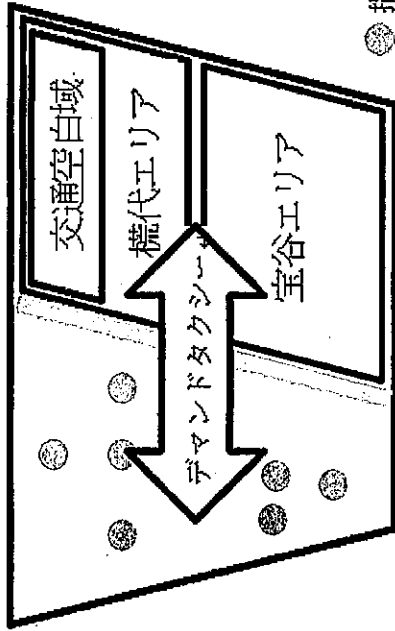
○効率化の観点から令和4年度に庄内交通バス路線松根線の短縮が予定されている。

○柳引の赤川右岸地域全体のデマンド型の公共交通を継続し、高齢者等の交通手段を持たない住民の日常生活を支援するとともに交通空白域を解消する。

○柳引の赤川右岸地域におけるデマンド交通（デマンドタクシー）を継続する。（令和3年11月18日実証実験運行開始）

事業内容

- 利用者の予約に応じて運行するデマンドタクシーの通年運行
赤川右岸地域（自宅から）と赤川左岸の商業施設や医院など16箇所の間を運行
樫代ルートと宝谷ルートを1日おきに運行
運行便数は、午前2便（1往復）、午後2便（1往復）
運賃は、1回400円（黒川郵便局までは1回300円）
- デマンド交通の運営主体である柳引地域デマンド交通運営協議会の運営
- 同協議会による運行計画の見直し
- 利用登録者、利用率増への取組
- 観光利用（マイクローリズム）との連携の検討



指定場所



2022(R4)予算額

4,909 千円

| | | | |
|--------------------------------|-------|------|-------------|
| 実施年度 | R1～R4 | 事業種別 | 継続 ソフト・事業補助 |
| 榊引地域振興計画での位置づけ (5) 地域づくりの推進 | | | |

住み続けたい地域を指して
 地域を深めよう
 ○自分(たち)の考えや思いを語り合い交流を深めよう
 ○興味のあることを研修してみよう
 ○自分(たち)でやってみよう

これまで...
 職場、家族、仲間以外に地域の若者同士が、語り合う場・機会」がほとんどない

地域のプレーヤー (事業者・農業者等)
 くしびきこしやってプロジェクト
 次世代を担うプレーヤー

・やりたいことがあるけれど、そういう手法があるんだらう
 ・今やっているものを一緒にやってくれる人がいればなあ
 ・気軽に話し合える場がほしいなあ

榊引の地域資源の再確認
 榊引フィールドを体験しながら、集まって語り合い、互いの活動のヒントや新しい視点を見つめる「場」として活用！サードプレイスの創出

交流
 ○○が地域にあったら楽しそう！
 私たちの活動を一緒にやってみない？

実践
 今やっていることを、他の回かと一緒に出来ないかな？
 楽しそうにやってみよう！
 こんなことを考えてるんだけど...
 榊引にこんな楽しいところがあったん

研修
 地域づくりに関わるきっかけづくり、自分自身のスキルアップ
 自分(たち)の活動を継続しながら、他との連携(仲間づくり)
 市の施策への反映、地域づくりの実践
 WS等で話し合ったことを成果に結びつける

事業名
 くしびき若者未来創造事業

情報・課題・課題
 地域のリーダーが高齢化してきており、次世代への継承を図るため、地域のため、地域のリーダーをリードしている若い人材を発掘・育成することが急務となっている。また、事業を通して若い世代の人脈拡大、新たなまちづくり事業の提案・実施を行うことで、地域貢献や地元定着につなげる。

事業目的
 協働のまちづくり、地域の未来創造には、若者の英知と独創的アイデア、そして行動するエネルギーが不可欠であることから、榊引地域の若者による研修や交流等を通じて、地域のまちづくりを牽引していきけるような人材の育成に寄与する。
 令和2年度から気軽に話し合う場として、参加者同士の人脈を拡大しながら若者が地域づくりに関わるきっかけとなるワークショップ「かだりばくしびき」を開催している。
 ワークショップテーマとして榊引地域の資源の再確認、活用アイデアを出してもらい、施策への反映や参加者たちが実際に事業として取り組むことで若者が地域のまちづくりに参画する機会を創出する。

事業内容
 榊引地域に在住・在勤する高校生からおおむね40代の若者による研修等の事業を実施し、参加者が実施することを想定した事業の検討を行う。
 【令和元年度】
 ・仕掛人養成講座への参加 5回 (榊引生涯学習センター主催)
 【令和2年度】
 ・ワークショップ1回
 【令和3年度】
 ・榊引フィールドを感じながらのワークショップを3回開催
 第1回：ぶどう狩りで秋の味覚を楽しもう&地元定着について考えてみよう
 第2回：たき火を囲んで地元定着について考えてみよう
 第3回：山添校と黒川能の里見学&閉校後の山添校の活用アイデアを考えてみよう
 【令和4年度】(予定)
 ・ワークショップ3回
 (内、参加者実施事業の企画2回)

2022 (R4) 予算額 183 千円

事業名 榎引地域花いっぱい運動で環境美化推進事業

・S53年花と緑の町推進会議が結成され、花いっぱい運動がスタート。S55年に榎引町の花「サルビア」を制定し、各地区自治会に植栽したサルビアを審査する花いっぱいコンクールを開催。S59年から国道112号歩道にサルビアを植栽し現在まで継続している。
 ・榎引花と緑の会を結成し、市（補助金）、賛助金、地区自治会費を財源に事業を実施。

・国道112号線の植栽花壇は、通称「サルビアロード」とよばれ、歩道植栽帯の設置によって交通事故を低減させる役割を果たすとともに、通行者に心のやすらぎを与えており、H20年には緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受賞している。
 ・国土交通省からの支援を受け、下山添地区老人クラブを中心に賛助会員、市職員や鶴岡南高校山添校等ボランティアの協力により支えられてきたものであり、今後も継続していくためには行政の支援が必要不可欠である。

・下山添地区老人クラブが国道花壇維持管理の中心を担っていたが、現在は対応できなくなつたため当会の会長を中心に実施しているが、高齢化や担い手不足が課題となつている。また、国道植栽にボランティア協力をいっただいてきた鶴岡南高校山添校が令和3年度をもって閉校されることにより、作業協力者の大幅な減少が懸念される。

・今後も運動を継続していくためには、維持管理の担い手やボランティアの確保が必要である。

- ・花づくりと緑化を積極的に推進し、環境を整え美しく住みよいまちづくりに貢献する。
- ・多世代の交流によるコミュニティの活性化を図る。

・榎引花と緑の会（事務局：榎引庁舎総務企画課）が実施する、サルビアの植栽等費用に対して引き続き補助金を交付する。

- ・20地区の参加による花いっぱい運動とコンクールの実施
- ・国道112号四車線区間へのサルビア植栽と肥培管理

| | | | |
|----------------|-----|--------------|--------|
| 実施年度 | R1～ | 事業種別 | 継続 ソフト |
| 榎引地域振興計画での位置づけ | | (5) 地域づくりの推進 | |

活動方針

榎引花と緑の会 活動方針

- (1) 花づくりと緑化の推進（持続可能な活動の実施）
- (2) 美しく住みよいまちづくり（全地区参加型、普及啓発）
- (3) 多世代の交流（人づくり）
- (4) コミュニティの活性化（地域づくり、課題解決）

花と緑の会で課題を整理し、活動内容を見直しながら継続的に実施

活動内容の見直し (R4)



新築による花苑

○ 国道112号植栽の見直し

⇒ 県農業技術普及課と連携し、土壌改良や地品種の植栽を検討

○ 国道112号植栽の栽培管理の負担軽減

⇒ 補助金型を見過し「栽培管理に要する経費」を対象に加える

○ 国道112号植栽参加者への記念品プレゼント

⇒ ボランティア参加者へ缶バツをプレゼント（普及啓発）

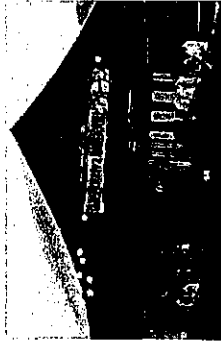
花いっぱい活動を持続し、市民が安全安心な生活を送れる環境づくり



※R4から榎引中学校が活動参加の意向

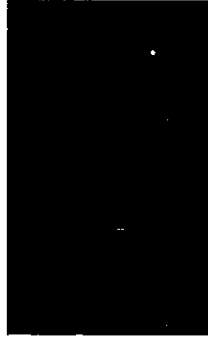
| | | | | | |
|-----|----------------|----------------|-----|--------------|--------|
| 事業名 | くしびき夏のイベント推進事業 | 実施年度 | RI～ | 事業種別 | 継続 ソフト |
| | | 楠引地域振興計画での位置づけ | | (5) 地域づくりの推進 | |

少子高齢化の進行と人口減少、就業構造の変化などの要因により、地域の連帯感が希薄になっている。過去にはJAや商工会がそれぞれで夏のイベントを実施していたが、地域内の関係組織・団体が連携・協力して地域住民の交流の場を設けながら、地域のまとまりや活力を維持していく取り組みが求められている。黒川能野外能楽「水焰の能」は、旧楠引町誕生30周年の記念事業の一環で開催したイベントで回数を重ねて楠引地域における夏の風物詩として定着している。



くしびき夏まつり

伝統芸能の発表



子ども向けコーナー

総合運動公園の整備に伴い、黒川能野外能楽「水焰の能」の会場は楠引福祉公園から総合運動公園野外ステージに移った。水焰の能のための舞台を設営して開催を重ねてきたが、その設営場所を夏まつりにも活用をとうことと、JA庄内たがわ(農業)、出羽商工会(商工)、楠引観光協会(観光)の関係団体が連携・協力のもと、地域住民が一堂に会する夏のイベント「くしびき夏まつり」を開催するもの。住民交流により賑わいを創出し、地域のまとまりを高めている。人・もの・情報の交流を一層推進し、地域の活性化及び発展につなげること。



ステージアトラクション

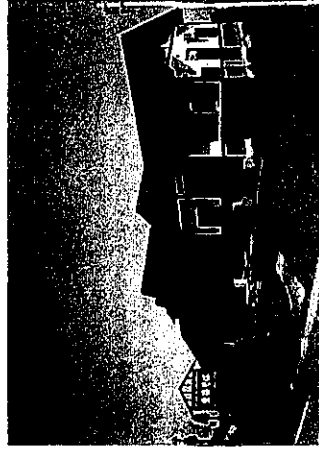




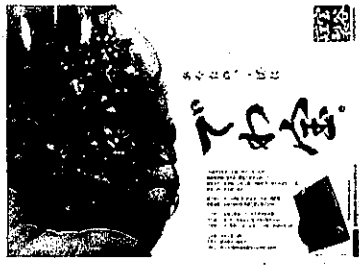
水焰の能(別途予算による開催)

8月の第1金曜日開催の「くしびき夏まつり」と第1土曜日開催の「水焰の能」を楠引地域の夏の二大イベントと位置づけている。くしびき夏まつりは、業種や年代を超えて楠引地域の老若男女が集うイベントに定着してきており、実行委員会の企画により伝統芸能の発表なども盛り込まれている。開催年ごとの実行委員会の協議により、新たなアイデアを加えながら、目的に沿った事業となるように支援を行う。農業団体、商工団体、観光団体等により組織される実行委員会を市が共催する形で運営補助金を拠出するとともに人的支援も行う。

- 産品の紹介販売
- 子どもの向けコーナーの設置 (パルーンアート、パッチリカー、緑日コーナーなど)
- ステージアトラクションの実施 (伝統芸能の発表、歌謡ショーなど)



黒川能 能一番 (ほかに狂言一番、東小児童の舞囃子)

| | | | | |
|---|---|--------------------------|---------------------------------|----------------------|
| <p>事業名</p> | <p>「でわ宝」で地域おこしプロジェクト事業</p> | <p>実施年度</p> <p>R3～R4</p> | <p>事業種別</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> | <p>継続</p> <p>ソフト</p> |
| <p>情報提供先</p> <p>宝谷地区振興計画での位置づけ</p> | | | | |
| <p>宝谷地区</p> | | | | |
| <p>宝谷地区は「そば」を核とした地域づくりに取り組んでおり、「ふるさとむら宝谷運営管理組合」でそば店舗を運営しているほか、県産そば新品種「山形BW5号（宝谷では「でわ宝」として商標登録済）」の県内最大の産地となっている。 （作付面積：約33ha）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内人口が25世帯76名（R3.12.31現在）にまで減少、高齢化率も50%を超え、住民同士の共助にも限界が見えている。 ・将来的な地域づくりを見据え、平成30年7月に「宝谷地区集落ビジョン」を策定。 ・アフターコロナで、ソロキャンプ等のニーズが高まっており、キャンプ場利用者が増加傾向。 ・新商品として開発中の「冷凍そば」の販売に向けて、通販サイト等の活用を検討。 |  <p>ふるさとむら宝谷</p>  <p>ふれあい広場(キャンプ場)</p> | | | |
|  <p>「でわ宝」100%を原料にした宝谷そば</p> |  <p>ウォーキングイベント(イメージ)</p>  <p>試作中の「冷凍そば」</p> | | | |
|  <p>宝谷そばポスター</p> | <p>宝谷地区地域資源活用事業補助金 [R4予算額：935千円]</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域資源活用のための環境整備（キャンプ場照明整備） (2) 「でわ宝」（玄そば、そば粉）の販売促進 (3) そば店舗集客力向上の取組み（遊歩道を活用したウォーキングイベントの実施） (4) 新商品として開発中の「冷凍そば」の通販サイト販売経費 | | | |
| <p>2022(R4)予算額</p> <p>935 千円</p> | | | | |

| | | | |
|--------------------------------|-----|------|--------|
| 実施年度 | R4～ | 事業種別 | 新規 ソフト |
| 柳川地域振興計画での位置づけ (5) 地域づくりの推進 | | | |

事業名 「くしびき温泉ゆ〜Town」 活性化事業

【背景】健康増進施設として新たなスタートを切った「くしびき温泉ゆ〜Town」を、新規利用者を含めた利用拡大を図る。

【課題】管理運営事業に販売促進費用が含まれていないため、サービスの低下に伴う利用者の減少が懸念されることに加え、新規の顧客獲得が困難となっている。フレイル予防事業は高齢者向けであるため、若年層が対象とならない。施設の劣化により、安心・安全に入浴を楽しめない箇所がある。

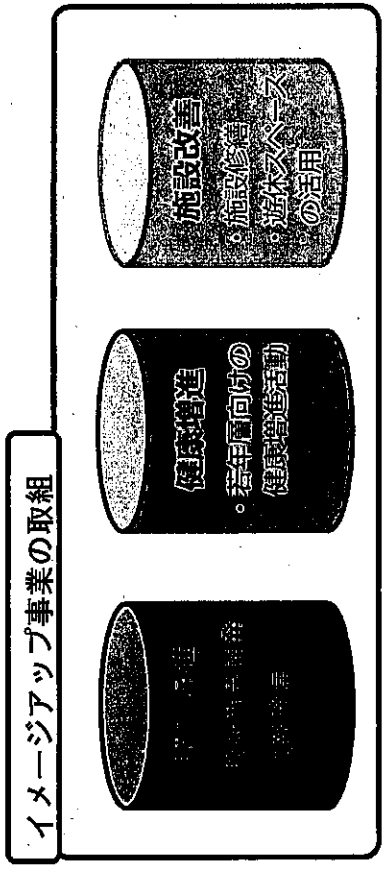
新たな魅力等を付加するイメージアップ事業により、地元の温泉施設としてより一層地域に浸透させ、地域住民の交流拡大による地域の活性化に向けた取り組みを行う。

- ①販売促進 (販促商品開発、情報発信)
- ②健康増進 (若年層向けの健康増進活動)
- ③施設改善 (施設改善、遊休スペースの活用)

- 【販売促進】
- ・オリジナルキャラクター作成
 - ・キアラを使用したタオルや防水バック等のオリジナルグッズ開発
 - ・インフルエンサーへの入浴割引券による、情報発信

- 【健康増進】
- ・若年層が実施する健康増進事業に支援し、ゆ〜Townに若者を取り込む
 - ※健康増進事業の参加者が自主的にサークル活動を出来るような流れを作る

- 【施設改善】
- ・老朽化している施設の改修
 - ・遊休スペースの有効活用



地域の居場所づくりとして ゆ〜Townを提供する

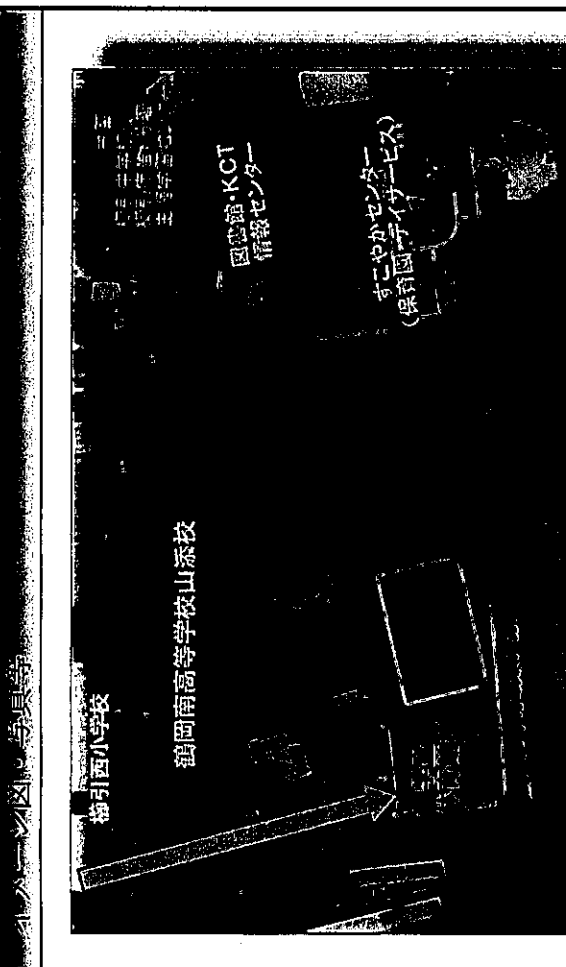


期待される効果

- ・施設のイメージアップによる活性化で入浴者数増。
- ・販促グッズを活用して新規入浴者を獲得する。
- ・施設改善により子育て世代等の顧客を獲得する。
- ・若年層が温泉を積極的に活用することにより今まで利用の少なかった若年層を取り込む。

| 事業名 | 実施年度 | 事業種別 | 継続ソフト |
|---|------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
| <p>梶引地域いきいき健康活動拠点運営への支援事業</p> <p>背景・課題・住民ニーズ</p> <p>平成29年度までは、地区公民館等の施設を使用しながら概ね65歳以上の高齢者を対象に、語らいや交流、運動や健康づくりなどを通じて、閉じこもり・認知症などの予防と要介護状態にならないことを目的として、梶引地域の多くの地区でいきいき健康クラブ運営事業（介護予防事業）が実施されていた。</p> <p>現在は、介護保険法の改正に伴い、市全域で長寿介護課が所管する「地域介護予防活動支援事業」に移行し、年間を通して定期的に運動（体操）を取り入れることで、高齢者の基礎体力・筋力アップを図ることで介護予防の効果を高める内容に見直されている。</p> <p>このため、いきいき健康クラブ運営事業とは取り組み内容が大きく異なっているため、従来の事業を代替するには至っておらず、移行を断念し高齢者同士の交流や語りなどの機会を失っている地区も一部ある。</p> <p>なお、住民自治総合交付金の見直しにより、地区の判断で自由に活動できる財源が多くなりとも交付されている。</p> | <p>R2～</p> | <p>事業種別</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> | <p>継続ソフト</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> |
| <p>事業目的</p> <p>高齢者の健康維持、生きがいづくり、閉じこもり予防のために各地区が自主的に取り組む活動を支援するため、各種講座・研修を企画するにあたり参考になる講座メニューやその申込先をわかりやすく一覧にまとめたりリストを作成・配布する。</p> | <p>実施年度</p> <p>R2～</p> | <p>事業種別</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> | <p>継続ソフト</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> |
| <p>事業内容</p> <p>各種講座・研修を企画するにあたり参考になるリストを作成するとともに、各種事業の情報提供をしながらサポーターを行っていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①情報の収集 ②提供メニューの検討・照会 ③リストの作成・配布 ④情報提供・事業啓発 ⑤地区が行う事業のサポーター <p>また、活動ができていない地区および継続が困難な地区については、意見交換等による情報収集を行い、合同開催等による活動の実施について検討を行う。</p> | <p>実施年度</p> <p>R2～</p> | <p>事業種別</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> | <p>継続ソフト</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> |
| <p>◆ 高齢者を対象として関係機関や個人等が実施している様々な分野の講座メニューやその申込先等をわかりやすく一覧で整理・配布・事業実施サポート</p> <p>健康づくり、介護予防、閉じこもり予防、生きがい・絆を深める活動</p> <p>体操・軽スポーツ・レクレーション・創作・芸術・研修等</p> <p>↓</p> <p>高齢者が住む地区の中に、気軽に歩いて参加できる活動の場（活動拠点）の継続設置や新規開設へつなぐ</p> | <p>実施年度</p> <p>R2～</p> | <p>事業種別</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> | <p>継続ソフト</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> |
| <p>※ いきいき百歳体操講座（板井川地区）の様子</p> | <p>実施年度</p> <p>R2～</p> | <p>事業種別</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> | <p>継続ソフト</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> |
| <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域介護予防活動支援事業【長寿介護課】 ・ いきいき百歳体操講座【長寿介護課】 ・ 生涯現役推進事業（なり元気塾）【市社協事業】 ・ 福祉活動支援事業（サロン活動）【市社協事業】 ・ その他【地区単独事業】 | <p>実施年度</p> <p>R2～</p> | <p>事業種別</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> | <p>継続ソフト</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> |
| <p>2022 (R4) 予算額</p> <p>- 千円</p> | <p>実施年度</p> <p>R2～</p> | <p>事業種別</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> | <p>継続ソフト</p> <p>(5) 地域づくりの推進</p> |

| | | | | | |
|-----------|-----------------|------|-----|------|--------------|
| 事業名 | 山添校閉校後の跡地活用（検討） | 実施年度 | R2～ | 事業種別 | 継続 ハード・ソフト |
| 目標・課題・世帯等 | | 概要 | 鶴岡市 | | (5) 地域づくりの推進 |



山添校は令和3年度（今年度）末で閉校となるが、鶴岡南高・中高一貫校の部活動の場として、グラウンド・体育館は県で引き続き活用する予定（最長令和7年度ごろまで）。

鶴引地域において巨大な遊休施設とならないようにと、地域振興懇談会や市議会が跡地活用を望む声がある。

手狭となつて西西部学童保育所の課題と、子育て世代やまちづくり塾メンバー、地域振興懇談会委員など多方面より、地域に大型遊具のある遊び場の要望がある。

鶴岡サッカー協会等より人工芝サッカー場の整備要望があり、山添校跡地も候補地の一つとなつている（鶴岡市には人工芝サッカー場が無い）。

校舎棟は、閉校後に県での活用予定はないが、設備の老朽化等が進んでおり、その活用には慎重な姿勢が必要。

閉校後の跡地について、引き続き敷地及び施設全体が地域振興に資する施設として活用されるよう強く県へ働きかけをしていく（県への市重要事業要望に追加で、県営サッカー場の整備要望と、他県有遊休施設と合わせて山添校の管理・活用を入れ込んだ形で要望した）。

関係部署と連携して県への要望や調整を進めつつ、市としての方向性を定めていく。鶴引庁舎として、従前から考えた人工芝サッカー場の誘致（整備）、体育館棟（武道場）に西部学童保育所の移転、付随設備としてグラウンドの一部に遊具広場を設置できないかの検討を継続。サッカー場・遊具ともに、空き時間には一般開放する仕組みを検討。安全に遊べる場・親子でふれ合える場を創出し、子育て世代や祖父母世代が集い交流することにより地域コミュニティの醸成につなげる。もつて少子化への歯止めの一助とする。

校舎棟活用については、将来的な耐用年数も考慮し、大きな投資とならないような活用方法を探る。

- 関係部署と連携して、県での活用、処分、条件等について、意向確認や調整を進める（R2にメールでの確認、R3に県庁訪問を実施）
- 関係部署と連携して、県への要望、市内部の情報共有、方向性を定めていく（R3に庁内検討会議などを実施）
- 校舎棟については設備の老朽化等から、そのままでは活用が難しい（使途が制限される）面がある。有効活用していくには具体的な利用希望者を募っていく必要がある（R3に若者未来事業にて活用アイデアワークショップを開催）
- 市の方向性が定まった場合、事業（整備）の実施（県調整）は、事業担当課で行う。

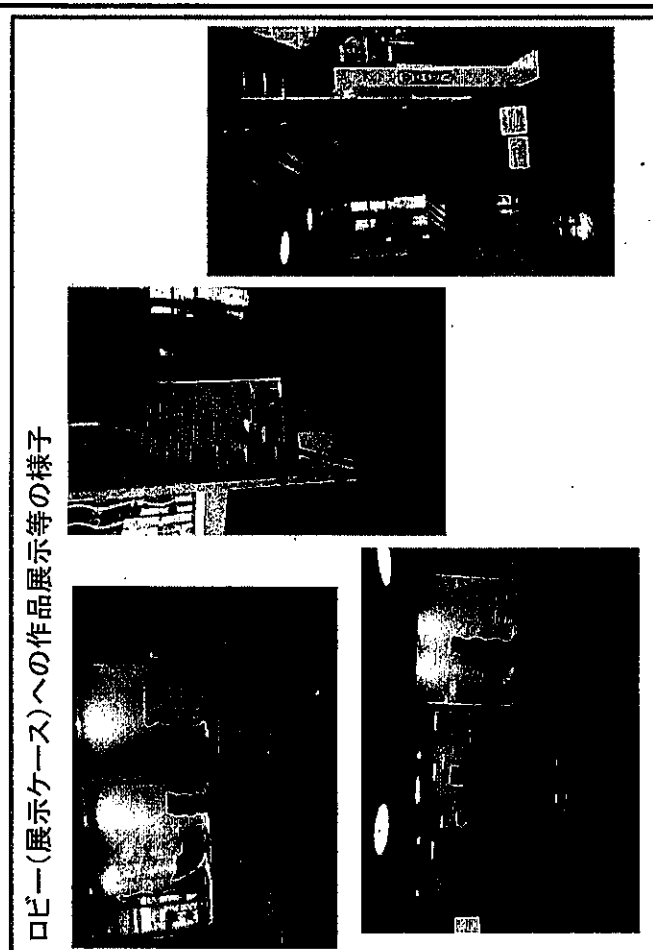
| | | | | |
|---|-------------------|-------------------|--------------------|--------------|
| 事業名 | やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業 | 実施年度 R6(R2)～R9 | 事業種別 継続 ハード・ソフト | (5) 地域づくりの推進 |
| <p>背景・課題・住民ニーズ</p> | | | | |
| <p>1. 子どもが、遊べる公園・環境が少ない。 2. 年齢問わず地区民の“いこいの広場”としてのスポーツセンター付近を拠点施設として整備し地域住民の誇りと元気を醸成するものである。 3. 桜開花時期、やすらぎ公園沿いにぼんぼり設置要望がある。 4. 桜の手入れ不足の声（テングス病駆除や大枝剪定） 5. 桜の開花時期に必ず馬渡川付近への行き方についての問い合わせがあるが、道路標識が無いため、説明に苦慮する。</p> | | | | |
| <p>事業目的</p> <p>多くの地域資源が集積する「やすらぎ赤川河畔エリア」を一体的にとらえ適切な管理と活性化を施すことで、交流人口を増やしにぎわいを創出する。 また、スポーツ公園付近に遊具の新設、年齢問わず地区民の“いこいの広場”としてのスポーツセンター付近を拠点施設として整備し地域住民の誇りと元気を醸成するものである。</p> | | | | |
| <p>事業内容</p> <p>やすらぎの赤川河畔エリアは住民いこいの場の拠点化 ① 周辺施設との赤川周遊（右岸含む）が出来るレンタサイクルの配置。 （サイクルポート：4箇所：スポーツセンター、産直めぐり、王祇会館、丸岡城跡） ② 誘導案内看板4基（馬渡川の桜づつみへのアクセス） ③ 利用案内看板2基（ジョギング等の案内用） ④ 桜並木の適切な管理 国、地元、市の三者協定による計画的更新、テングス病駆除大枝剪定 ⑤ ちびっこ広場に遊具設置 「赤川かわまらちづくり計画」で整備検討</p> | | | | |
| | | | | |
| <p>2022(R4) 予算額 1 千円</p> | | | | |

| | | |
|------|----------------------|-------|
| 事業名 | 「空にかける階段」インフォメーション事業 | |
| | 実施年度 | R1～R2 |
| 事業種別 | 完了ソフト | |
| | (5) 地域づくりの推進 | |

実績(実績)及び今後の計画

実績

- ・関係者による懇談会開催
- ・ロビー展示ケースへの作品展示
- ・紹介パネルの作成及びQRコードから紹介映像へのリンク
- ・権引生涯学習センター内の各所への作品展示(ホール、ロビー、各会議室)



評価

- ・QRコードからのリンクで紹介映像や富樫実ホームページの閲覧を容易にできることにより、市内各所にある石彫作品への見学者増が期待できる。

今後の方向性

- ・富樫氏の作品の貸し出し事業・権引生涯学習センターへの展示については、継続して実施。

事業内容

(背景) 権引地域出身の世界的彫刻家「富樫実」(名着市民)の「空にかける階段」シリーズは、権引地域の富樫ロード(仮称)や権引庁舎を始め、市内では区内空港、山形自動車道鶴岡IC、美咲町開墾地、開運橋、千歳橋があり、国内外にも多数設置されており、その芸術的評価は京都市文化功労賞、紺綬褒章等を受賞するなど権威の高いものである。現在、氏の木製作品は、権引庁舎に数多く展示、公共施設や民間企業に貸し出しを行うことで気軽に目にし触れられる展示を行っている。

(課題) 氏の作品については権引地域の各所に展示されているが、氏の人物像、功績、作品思想等の紹介が薄く地域住民より認知されていないという課題がある。

(住民ニーズ) 権引観光協会をはじめ地域の富樫支援者では、氏の功績を広く知らしめ後世に伝え、また権引地域の芸術的シンボルとして「空にかける階段」を位置づけ、黒川能、丸岡城跡の観光資源に繋げたいという考えが以前よりある。

事業内容

○世界的彫刻家である富樫実氏(名着市民)の「空にかける階段」作品を紹介するブースを拠点として整備するとともに、市内各所に点在する氏の作品を視て回遊できる仕組みを作り氏の功績を広く伝える。

事業内容

○名称 「空にかける階段」インフォメーションブース(仮称)

○設置場所 生涯学習センター(ロビー)

○内容

- ・作品紹介ブースの整備
- ・氏の彫刻作品や作品思想の紹介パネルとYouTube映像の検討
- ・市内各所に設置されている作品を回遊できる仕組みづくり。
- ・拠点整備のための関係者懇談会の開催。

上記の予定で進めていたが、施設改修を伴う展示を行うのではなく経費抑制などの観点から方向転換し、権引生涯学習センターへの作品展示、紹介パネル作成、QRコードからの市庁紹介映像へのリンクを実施し、当事業としては区切りをつけて完了することとした。

| | | | |
|--------------------------------|-------|------|------------|
| 実施年度 | R1～R2 | 事業種別 | 統合(完了) ソフト |
| 榊引地域振興計画での位置づけ (5) 地域づくりの推進 | | | |

実績(動画)及び今後の方向性

事業名 榊引地域の情報発信事業(榊引PR事業)

飛躍的に普及拡大しているインターネットは、発信できる情報量が豊富で、即時性や経済性、双方向性といった特性を持っている。特にソーシャルネットワークやキングサービス(SNS)は、即時性及び経済性に優れており幅広い人々に情報発信が可能となる。

○ホームページやパンフレットは形式的であり、具体的な内容が伝わりづらい。

○榊引地域外の人々が榊引地域のタイムリーな情報について知る機会がほとんどない。

○KCTはあるものの榊引・朝日地域のみでありそれ以外の地域に動画で情報発信はできていない。

実績

■ SNS投稿数 (単位:回)

| | メイン | 動画 | ストーリーズ(品種紹介) | 投稿先 |
|------|-----|----|--------------|-----------------------|
| R1年度 | 61 | — | — | Instagram Facebook |
| R2年度 | 60 | 7 | 50 | |

Instagram, Facebook, Twitter icons and text: R3年度から、twitterアカウン ト

■ SNSフォロー数 (単位:人)

| | Instagram | Facebook | 合計 | 備考 |
|------|-----------|----------|-----|-----------|
| R1年度 | 313 | 225 | 538 | R2.3.31現在 |
| R2年度 | 652 | 305 | 957 | R3.1.31現在 |

Sample SNS posts for Instagram and Facebook with captions in Japanese.

評価

・SNSによる情報発信の強化により、榊引フルーツの訴求効果が高まった。

・「くしびきフルーツ日記」が配信されることで、農家の生産意欲の向上につながった。

今後の方向性

・本事業については「くしびきフルーツ振興プロジェクト事業」に統合し、ブラッシュアップを図りながら情報発信を継続する。

近年の情報発信の多様化により市民や観光客の情報入手方法はホームページやパンフレットのみだけでなく、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターなどのソーシャルネットワークサービス(SNS)を利用したものが増えている。SNSでは写真を中心とした文字での情報を、動画を活用した情報が発信可能である。これらを利用し、SNS世代である若者を中心に榊引のフルーツを中心として日常風景などを発信する。

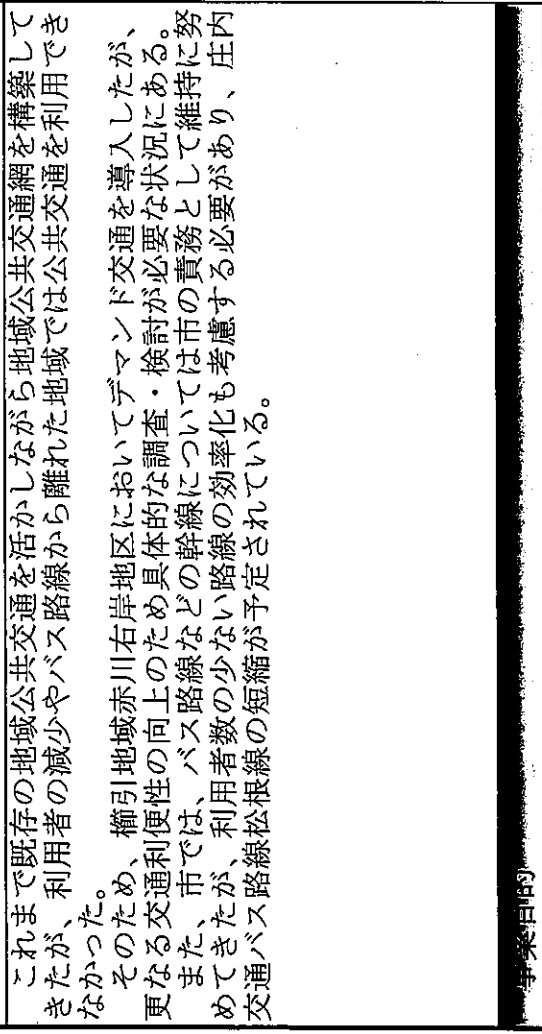
■ SNS (facebook・instagram) の活用

・元年4月に立ち上げた「くしびきフルーツ日記」(R2年2月現在vol.58配信)において、静止画・イラストだけでなく果樹を中心とした作業や榊引の日常風景などについて動画と連動した情報発信を行う。

本事業については、令和2年度より「くしびきフルーツ振興プロジェクト事業」に統合し、内容を強化しながら情報発信を継続することとした。

| | | | |
|----------------|----|------|--------|
| 実施年度 | R3 | 事業種別 | 完了 ソフト |
| 櫛引地域振興計画での位置づけ | | | |
| (5) 地域づくりの推進 | | | |

実績(計画)及び今後の方向性



※成果品については、令和4年3月下旬に受領予定

| | |
|-----|--------------|
| 事業名 | 櫛引地域公共交通調査事業 |
|-----|--------------|

これまで既存の地域公共交通を活かしながら地域公共交通網を構築してきたが、利用者の減少やバス路線から離れた地域では公共交通を利用できなかつた。そのため、櫛引地域赤川右岸地区においてデマンド交通を導入したが、更なる交通利便性の向上のため具体的な調査・検討が必要なる状況にある。また、市では、バス路線などの幹線については市の責務として維持に努めてきたが、利用者数の少ない路線の効率化も考慮する必要があるが、市内交通バス路線根線の短縮が予定されている。

住民の利便性と公共交通空白地帯を生まない持続可能な公共交通体系を確保するため再編調査事業を実施している。

- 事業内容
- 1 これまで行われてきた調査事業の結果や路線分析などを活用し、市で計画してきた再編案についての検証と裏付けの調査等を専門家に委託した。
 - 2 デマンド交通実証実験運行等のデータを分析し、市民にとってより利用しやすい運行計画を提案いただく。(履行期限 令和4年3月28日)
- ※既存の交通網を含めた藤島・櫛引地域全体の地域公共交通再編の調査・提案等を業務委託している。

